



使わない言葉が書けない漢字

入試や定期テストの直前に漢字の読み書きドリルをやってもなかなか効果が出ないという人がいます。覚えるのが苦手という言い訳を聞きますが、そもそも使っていない言葉だからそれにあてはまる漢字を思い出せないようなのです。小4の漢字を中3に書かせてみて圧倒的にできないのが「印紙」。領収書に貼ってあるあれです。小中学生にはなじみがないかもしれないけれど公立入試の願書には似た種類の、県か市の収入証紙を貼りますよ。

中1の今回の統一テストでは、「報い」が読めず、「区画」が書けませんでした。中2では「越境、軌跡、履修」が読めず、「歴訪」が書けませんでした。何より驚くのは25年の高校入試（後期）で出題された「公明正大」を正しく書けた受験生がたった9%だったという事実。もうこの言葉は使われなくなった言葉だとしたらなんとも悲しい。やはり普段から幅広い日本語に触れてそれを使う機会を増やして行ってほしいですね。

言葉を知っていていいことは、より広い範囲の人との意思疎通ができるようになって、仕事でも趣味でも生活する上で楽しくラクチンになることです。しかし、他人から言われたことの意味がわからないままでは、つまらなくなってしまう以上話が進展しないでしょう。逆に自分の言いたいことがなかなか言葉にできず、相手に伝えられない時には本当にもどかしく感じることでしょう。もともとは九州北部の方言らしい「あ～ね。」という若者言葉を最近よく耳にしますが、いつも相槌を打ってばかりでなく、少しでもいろいろな種類の言葉を覚えて使ってみる必要があります。

4月26日には新聞検定が行われます。この塾も公開会場となり、私も問題作成委員の一人として関わっていますが、「情報を得るならネットで充分、新聞はいらない」という意見には反対です。政治・経済・文化からスポーツや身近なできごとまで毎日興味をひかれることが幅広く載っていて、いちいち検索しなくても目に飛び込んでくる一覧性で新聞にかなうものはありません。言葉の獲得に最適！